

【R 1 8】会話形式ノベル（台本仕様）

『保健室の先生は悪い女』

作：七条右京

【登場人物】

- ・ かんだ りゅうせい 神田 流星：男子生徒
- ・ きもと あや か 木本彩花：保健室の女の先生

木本彩花は、ショタコン。

**身体検査の時に目を付けた神田流星を、保健室
に呼び出した。**

**全裸にして、おちんちんの性感帯を刺激して楽
しむ彩花。**

○保健室

彩花と流星のふたりきり。

今日の彩花の服装は、白のブラウスに、黒のタイト超ミニスカート。

木本彩花：

「神田流星君、よく来てくれたわね」

「先生嬉しいわ」

「今日も可愛いわね」

「今日はね、君のカラダでちょっと調べたい事があるの」

神田流星：

「えっ、ボクのカラダ、どこか悪いんです

か？」

彩花：

「安心して、そんな事はないから」

「ただ、君がちゃんと成長してるかみたいのよ」

「君の性的な部分が」

流星：

「えっ、性的な部分って？」

彩花：

「具体的に言うと、君のおちんちんがちゃんと成長してるかみたいのよ」

流星：

「えっ、ボクのちんこですか？」

「恥ずかしいです」

「ボク、先生にちんこ見せるんですか？」

彩花：

**「そうね、君のおちんちん見たいから、見せて
くれるかしら？」**

流星：

「え～、ボク、恥ずかしくて見せれません」

**「ボク、まだ女の人に、ちんこ見せた事ないん
ですよ」**

彩花：

「大丈夫よ」

「先生はね、男のコのおちんちん見慣れてるから、見てもなんとも思わないのよ」

「見ても、エッチな気持ちにはならないから、安心していいのよ」

流星：

「え～、でも～、恥ずかしいです」

彩花：

「流星君は男のコでしょう？」

「いつかは好きな女のコに、見せる時が来るのよ」

「そんな時は堂々と見せなきゃならないのよ」

**「その為には今から、慣れておく必要がある
わ」**

流星：

「分かった」

**「ボク、恥ずかしいけど、先生にちんこ見せる
よ」**

彩花：

「良かった」

**「それじゃあ、着てる服を全部脱いで貰えるか
しら？」**